



バイエル薬品株式会社
〒530-0001
大阪市北区梅田 2-4-9
TEL 06-6133-7333
www.pharma.bayer.jp

News Release

バイエル薬品、患者志向のヘルスケアイノベーションに向けた変革へ、複数のマイルストーンを達成

- 「イグザレルト®OD錠」、「アイリーア®プレフィルドシリンジ」の剤形追加と「ニューベクオ®」の製造販売承認を含む、5つの承認を取得
- 「イグザレルト®」「アイリーア®」「ヤーズフレックス®」が貢献し、堅調な業績を維持
- 細胞・遺伝子治療を含む、開発パイプラインを構築し更なる進展を図る

大阪、2021年4月16日 — バイエル薬品株式会社(本社:大阪市、代表取締役社長:ハイケ・プリンツ、以下バイエル薬品)は、本日、既存の製品ポートフォリオや開発パイプラインでの進展など、2020年に達成したマイルストーンについて発表しました。

バイエル薬品は眼科領域、オンコロジー領域ならびに循環器・腎臓領域などにおいて、複数の重要な新製品や新たな適応に関する薬事承認を取得しました。2020年3月には「アイリーア®」において5つ目の適応となる血管新生緑内障の適応追加承認を取得し、失明にもつながりやすい難治性の緑内障に対する新たな治療の選択肢として提供しています。また医療従事者の負担軽減や施術の効率化を目指し、オート機能を搭載したMRI用造影剤自動注入装置MRXperion(エムアールエクスペリオン)の販売を開始しました。5月には、良好な有効性・安全性プロファイルを有する前立腺癌治療剤「ニューベクオ®」の販売を開始し、長期にわたる治療においても患者さんの生活の質の維持に寄与しています。さらに6月までに1日1回経口投与の腎性貧血治療剤「マスーレッド®」、進行・再発固形癌治療剤「ヴァイトラックビ®」、慢性心不全治療剤として「ベルイングアト」の製造販売承認を申請し、8月には「イグザレルト®」の口腔内崩壊錠の剤形追加の承認を取得しました*。現在、これらのアンメット・メディカル・ニーズの高い領域で製造販売承認取得や新製品の発売に向け準備を進めています。

* 2021年1月22日「マスーレッド®錠」について、腎性貧血治療剤として製造販売承認取得
2021年3月23日「ヴァイトラックビ®」神経栄養因子チロシンキナーゼ受容体(NTRK)融合遺伝子陽性の進行・再発固形癌の治療剤として製造販売承認取得
2021年1月22日「イグザレルト®錠」「同細粒分包」「同OD錠」について、小児の静脈血栓塞栓症に対する適応追加とともに、新生児・乳幼児の服用に適した新剤形として「イグザレルト®ドライシロップ小児用」の承認取得
「ベルイングアト」(本邦未承認)

バイエル薬品代表取締役社長のハイケ・プリンツは、今後の取り組みについて次のように述べています。「新型コロナウイルスがもたらした危機により、医療と医薬品におけるイノベーションの重要性が改めて認識されています。データとサイエンスを活用することにより、疾病の負担を軽減し、患者さんの治療に変革をもたらすことが製薬企業としての私たちの使命です。2021年は多数の革新的な新製品の上市を予定しています。引き続き、アンメット・メディカル・ニーズの高い領域においてイノベーションに投資し、今後も患者さんや医療従事者の皆さまにとって価値あるソリューションを届けていきます」

2020年のバイエル薬品の売上高は、前年比5.1%減¹の2,992億円¹(以下、薬価ベース)となりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響から回復し、事業目標を達成することができ、国内の医療用医薬品市場における売上高順位は10位²となっています。

主要製品の中でも経口抗凝固剤「イグザレルト[®]」、眼科用 VEGF 阻害剤「アイリーア[®]」、子宮内膜症に伴う疼痛改善剤・月経困難症治療剤「ヤーズフレックス[®]」が業績をけん引し、売上高はそれぞれ792億5,100万円(同3.9%増)¹、773億1,200万円(同6.9%増)¹、107億2,300万円(同57.9%増)¹を計上しました。また抗悪性腫瘍剤「スチバーガ[®]錠」、高脂血症治療剤「ロソーゼット[®]」など複数製品の伸長が売り上げに寄与しました。

これらの既存品の価値の最大化に注力する一方で、患者さんのためのイノベーションに投資を続けています。2021年には、国内で43件の第II相および第III相臨床試験が実施中もしくは開始を予定しており、オンコロジー、循環器・腎臓領域などのアンメット・メディカル・ニーズの高い疾患に関する研究開発に継続して取り組んでいます。また自社の専門性とともにも買収や戦略的パートナーシップ、研究協力を通じて外部のイノベーションを活用することにより、細胞・遺伝子治療を含む開発初期のパイプラインを拡充しています。

さらにバイエルはアカデミアとの研究提携及びパートナーの自治体や企業などとのエコシステム醸成を通じて日本発イノベーションの創出を推進しています。その一環として昨年、新たに複数のパートナー企業やアカデミア、自治体と協力し、世界展開を目指す日本のベンチャー企業を育成するためのアクセラレータープログラム「Kansai Life Science Accelerator Program」を開始しました。このプログラムを通じて、ベンチャー起業家・経営者を育成・支援するとともに、神戸ならびに関西のイノベーションエコシステム構築に寄与していきます。

バイエル薬品研究開発本部長である梶川真理子は、次のように述べています。「バイエル薬品は過去数年間にわたり、自社の専門性と外部とのパートナーシップやコラボレーションを組み合わせることにより、開発パイプラインの強化に注力してきました。“Science for a better life”に立脚し、患者さんと医療従事者の皆さまのアンメットニーズに応えるために、患者志向の研究開発を引き続き推進していきます」

1 Source: Copyright © 2021 IQVIA. Calculated based on JPM Dec 2020 MAT/Reprinted with permission

2 Source: Copyright © 2021 IQVIA. IQVIA Topline JPM data in 2020/Reprinted with permission

本資料に記載している主要製品の売上高は、100万円未満を四捨五入して表示しています

バイエルについて

バイエルは、ヘルスケアと食糧関連のライフサイエンス領域を中核事業とするグローバル企業です。その製品とサービスを通じて、世界人口の増加と高齢化によって生じる重要課題克服への取り組みをサポートすることで、人々の生活と地球の繁栄に貢献しています。バイエルは、持続可能な発展を推進し、事業を通じて良い影響を創出することに尽力します。同時に、収益力を高め、技術革新と成長を通して企業価値を創造することも目指しています。バイエルブランドは、世界各国で信用と信頼性および品質の証となっています。グループ全体の売上高は414億ユーロ、従業員数は100,000名(2020年)。特別項目計上前の研究開発費は49億ユーロです。詳細は www.bayer.com をご参照ください。

バイエル薬品株式会社について

バイエル薬品株式会社は本社を大阪に置き、医療用医薬品、コンシューマーヘルスの各事業からなるヘルスケア企業です。医療用医薬品部門では、循環器・腎臓領域、オンコロジー領域、眼科領域、婦人科領域、血液領域、画像診断領域に注力しています。コンシューマーヘルス部門では、プレナタルサプリメントや美容サプリメント、膣カンジダ抗真菌剤に注力しています。同社は、技術革新と革新的な製品によって、日本の患者さんの「満たされない願い」に応える先進医薬品企業を目指しています。詳細は www.pharma.bayer.jp をご参照ください。

バイエル薬品株式会社

2021年4月16日、大阪

※本資料は、国内の報道関係者の方々を対象に、バイエル薬品の企業活動に関する情報を提供しています。一般の方に対する情報提供を目的としたものではありませんのでご了承ください。

将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements)

このニュースリリースには、バイエルの経営陣による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements) が含まれている場合があります。さまざまな既知・未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因には、当社のWebサイト上 (www.bayer.com) に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。当社は、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負いません。